

やまなしの

くま

ま

【熊】



身延町

そっと抱きしめたくなる愛おしいクマたち 身延町

いつまでも眺めていたい、やさしい温もりを宿した木彫のクマたち。生みの親である大住 潤さんのアトリエは、新清水ICから約1時間、身延町の山々に囲まれた集落にあった。窓辺からの光を受ける作業机には、師匠から受け継いだ彫刻刀と彫りかけのクマ。大住さんは、自分の気持ちに正直な人だ。25歳の時にアイヌ紋様が施された木彫作品に魅せられ「自分もつくりたい」と木彫師を探しに北海道へ。頼み込んで弟子となり木彫の修行をして、3年前に「自然豊かな場所で暮らしたい」と身延町に移住した。クマの作品をつくり始めたのも、2年前に「クマを彫りたい」という思いに突き動かされたからだ。天気の良い日は外に出て、野鳥の声



や木々の葉音、川のせせらぎの中に身を置きクマを彫る。「創作中は悩み苦しむことが多いけど、完成したクマは心から愛おしい。」作品、というより「あなたのクマ」として愛してもらえれば嬉しいです」と大住さん。このアトリエで生まれたクマたちは、それぞれの持ち主と連れ添って歳月を過ごしてくれる、愛おしい存在になるのだと感じた。

N 「人の心を癒やす」作品づくりを大切にする
木彫師 大住 潤さん
Note 個展などの情報は <http://www.atelier-yagate.com>

「見る人がほっとする、やさしい気持ちになるものをつくりたい」と大住さん。クマは360度どこから見ても絵になり、見飽きることがない。「クマはどこか自分自身でもある」といい、アトリエでは写真家、星野道夫氏の著書にクマをはさんで置くことも。「こうすると尊敬する星野さんの世界に僕自身が入れる気がして楽しいです」。

